

いま開業助産婦として

笠松 愛子

ナースING助産院(宮城県多賀城市)

吉野幸枝さんから電話をいただいた時は、今年の夏遊びに行くからね、という連絡かと思いました。

吉野さんとは、昭和59年の宮城県看護教員養成の講習会の時一緒に学びあった仲です。

リーダー的な存在だった彼女から「りれ一随筆」を書いてねと言われたら、どうも断われません。

私はこのページが大好きなのです。登場する人たちのいろいろな生き方とおして、アドバイスやらヒントを与えてもらっています。

吉野さんから、開業するまでのことを聞かせて欲しいということでしたので、書いてみたいと思います。

助産婦になりたい

私は、母が開業助産婦をしていましたので、幼い頃よりお産を身近に肌で感じながら育ってきました。母はいつも忙しく働いていました。夜となく昼となく、もちろん日曜も祭日もない生活を見ていましたので、絶対助産婦以外の職業を選ぼうと思って育ちました。

中学1年の時、はじめてお産に立ち合いました。

急なお産でしたので、産婦さんの足元を持つように言われました。

まもなく元気なうぶ声が聞こえました。

産婦さんからお礼を言われた時は、気恥ずかしい気持ちもありましたが、飛びあがるほど嬉しかったことを、今でも思い出します。

それ以来お産があるたびごとに積極的に手伝いをするようになりました。

高校3年の春、進路を決める頃には、もう迷わず助産婦になろうと思うようになりました。

渋谷の日赤助産婦学校時代は、多くの友達に出会いました。

実習はとても厳しく今でも大変だったと思いますが、学びの多い1年間でした。

そして、看護教員養成講習会の時には、ゆっくりと考える時間がありました。

「看護とは何か」というテーマを与えられ、看護観を書きながら、私の看護の原点となったのは幼い頃から見てきた母の働いている後ろ姿だったのだと、その時はじめて気づきました。気持ちを文章にあらわした時、もやもやしていた思いが何だったのか、はっきりしたのでした。母と同じ開業助産婦になりたい、心からそう思いました。

看護教員の道を歩むつもりで講習を受けましたが、2年半後、職場を離れました。

開業助産婦をめざして

昭和54年の秋、東京で桶谷式乳房治療手技の講習があり、私は2日間ほど受講いたしました。

それから数年が経ち、その時の講習が動機づけともなり、桶谷先生のところに見学に行きました。

桶谷先生の乳房ひとすじの熱い情熱をじかに感じ、これから進む道の指針ともなったのです。昭



和 62 年 4 月より半年間、桶谷先生のもとで学ぶことができました。

この時に、地域の中では、こんなにも母乳のことで悩んでいるお母さん方が多かったのかと、あらためて知らされました。桶谷先生に出会えたことも幸運でした。

昭和 62 年 9 月半ば、研修を終えて、自宅にもどりました。この時母の胸を借りながら、学びたての手技を説明していると、ふと母の胸にしこりを感じました。すぐ仙台の国立病院に行き、このしこりは取った方が良いと言われ、手術となりました。たぶん桶谷先生のところで学ぶことがなかったなら、母の胸にも触れなかったと思います。

それからもうひとつ、研修中に赤ちゃんを抱いているうちに、ぜひもうひとり欲しいと思うようになりました。

母が退院したのち、もう少しで 39 歳というところで妊娠し、昭和 63 年 9 月 20 日に元気な女の子を産むことができました。

この時長女は 10 歳でした。母乳もじっくり飲ませることができ、子育てをあらためて楽しませてもらっております。

開業して 3 年目、何とか経済的にも見通しがついていた昨年、それまで平屋だった助産院を、2 階に増築し、入院する人が快適にすごすことができるように、環境を整えました。

現在私のところでは母乳外来の他に、産褥入院を扱っています。褥婦さんが病院を退院したのち

1 週間から 1 か月近くを私のところで過ごしていきます。こんなところがあって本当に良かった、と利用していただいた方には喜ばれています。

最近では産褥シッターを派遣する会社が次々となのりをあげてきています。助産婦はこの分野での専門性をいかし、適切な援助ができます。退院したのち、1 か月健診までの間が、援助がとぎれる空白の期間でもあります。このすきまをうめることができるのも開業助産婦なればこそです。

開業しながら仕事の内容も少しずつ変化させつつ、私の持っている夢を^{はぐく}育みながら、一步一步進んでいます。

* * *

次は桶谷研修センターと一緒に学んだ山崎裕恵さんをご紹介します。彼女は現在厚生連広島総合病院の総婦長をしています。

共同生活をしながら夜遅くまで語り合いましたね。でもその時、総婦長だったとは知りませんでした。ふり返ってみると納得です。あんなにエネルギーギッシュな人はなかなかいません。

その時フリーだった同期の藤原さんを、自分の勤務する病院へと紹介してつれていきました。さすが山崎さんです。

あれから病院内に母乳外来を開き、藤原さんと一緒にがんばられているようです。

本当に忙しい人ですので、夜遅くに電話しないと連絡がつきません。身体に気をつけて下さいね。楽しいお話を期待しています。